

「郷土史燕」第16号－大河津分水を語り継ぐ－が完成 －大河津分水への思いなどを収録し、郷土の記憶を後世へ伝えます－

燕市では、大河津分水を特集した「郷土史燕」第16号の一般頒布を4月11日から開始します。本特集号では、大河津分水に関する資料や思い出等を市内外問わず募集し、寄せられた13件を含め、公式記録に残りにくい身近な出来事や研究文等の記事を収録しています。大河津分水通水100周年を記念し本特集号を発行することで、大河津分水の「記憶」を次の100年へ向け語り継いでいきます。

【「郷土史燕」第16号－大河津分水を語り継ぐ－の概要】

1. 体裁：A5版、153ページ
2. 価格：700円
3. 一般頒布：4月11日（火）
4. 頒布場所：中央公民館、市内3図書館、分水良寛史料館、長善館史料館
5. 収録内容：大河津分水路完成後の暮らしに関する内容が多いことが特徴で、公式の記録に残りにくい、身近な出来事や思い出が収められています。
 - (1) 特集：大河津分水を語り継ぐ
 - ・信濃川改修工事記念杯
 - ・渡部 菅原神社 二ノ鳥居
 - ・大切なことを教えてくれた旧渡部橋 ほか10件
 - (2) 研究ノート・資料紹介
 - ・本間屋数右衛門の信濃川分水堀割の歴史的意義（著者：柳下 明也）
 - ・大河津分水の一揆と刑罰（著者：平澤 陽一） ほか5件
6. その他：本号刊行にあたり、大河津分水に関する資料や記事、思い出等を10月末まで募集した結果、13件寄せられ、それらすべてを掲載しています。



信濃川補修工事竣工記念碑の前で
(昭和33年頃/平出英雄さん提供)



渡部城付近の左岸山地掘削
(大正8年頃/信濃川大河津資料館提供)